

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

研究 1 医療保険ビッグデータを活用した、高齢がんサバイバーの
在宅療養・フォローアップ体制・に関する実態調査

研究分担者 名古屋大学医学部附属病院 化学療法部 教授 安藤 雄一
研究分担者 名古屋大学大学院医学系研究科 消化器外科学 教授 小寺 泰弘
研究分担者 杏林大学医学部腫瘍内科学 教授 長島 文夫
研究分担者 島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 講師 津端 由佳里
研究分担者 国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学 未来社会創造機構(医) 教授 梅垣 宏行
研究分担者 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 呼吸器内科 部長 山本 寛
研究分担者 東京大学医学部附属病院 特任教授 山中 崇
研究分担者 京都大学医学部附属病院 教授 寺田 智祐
研究分担者 慶應義塾大学看護医療学部 教授 鈴木 美穂
研究分担者 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所 行動科学研究部 室長 島津 太一
研究分担者 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所サバイバーシップ研究部 研究員 松岡歩
研究分担者 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所サバイバーシップ研究部 部長 内富庸介

研究要旨

国内の高齢がんサバイバーの在宅療養・フォローアップ体制の実態把握のため、(株)DeSC ヘルスケアの保有する国民健康保険・後期高齢者医療制度の 800 万人分の保険者データを用いて、個人レベルでの医療状況を調査する。

A. 研究目的

国内の高齢がんサバイバーの在宅療養、がん治療に伴う晩期合併症、再発、二次がん、他の併存疾患等に対するフォローアップ体制の実態を把握すること

B. 研究方法

(株)DeSCヘルスケアの保有する800万人分の国民健康保険・後期高齢者医療制度の保険者データを用いて、個人レベルでの医療利用を調査する。2014年4月から2023年3月までのデータを使用する。

（倫理面への配慮）

完全匿名加工情報を用いるため「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の対象外

C. 研究結果

令和 5 年度第 1 回班会議での意見を踏まえて、2023 年度は先行研究に基づいて仮説を構築したうえでデータ解析に進む方針となった。国内外の先行研究を参考に、仮説①「がん手術における高齢者総合機能評価（CGA）の有効性」、仮説②「高齢がん患者の終末期医療の質評価」の 2 つの仮説案を設定した。仮説①は高齢者のがん治療（手術）における CGA の短期・長期アウトカム（院内死亡、在院日数、再入院など）への影響を検討する予定である。仮説②は終末期医療の Quality Indicator（死亡する 30 日以内の新たな化学療法の開始、死亡する 14 日以内の化学療法、死亡する 1 か月以内の入院・ICU 入室・ER 受診、緩和ケアの実施の有無、死亡場所など）を用いて、高齢がん患者の終末期医療の質と関連要因を検討する予定である。専門家グループの助言を得ながら、ビッグデータ解析のための変数

を設定し、2023 年度末にデータ定義書を確定した。2024 年 5 月に Ad hoc 解析の結果が返却される予定である。2024 年度は、Ad hoc 解析の結果に基づいて、より詳細な分析を行っていく予定である。

D. 考察

現時点では、仮説①②ともにデータ定義書を提出し Ad hoc 解析の結果の受領まちであるため、考察は困難である。

E. 結論

2024 年度は Ad hoc 解析の結果に基づいて、より詳細な分析を行う予定である。この医療保険ビッグデータ解析の結果を、最終年度の患者・市民・多職種専門家による提言および支援資材開発のための参考資料とする。

F. 健康危険情報

該当なし（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

1. 論文発表
該当なし
2. 学会発表
該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他